

特別賞

ホタルの危機

赤坂小学校 平松 彩耶香

「生き物」と言ってもたくさんいます。大きく分ければ「動物」「魚」「昆虫」などです。それぞれ見た目や大きさはちがうけれど、私たちと同じで生きています。しかし、今まで人間が木を切りすぎたり、汚染された土や水をそのまま流すなどの身勝手な行動により多くの生き物が住みかをうばわれ、食べる物がなくなり仲間の数が減ってゆき、ついには絶滅の危険にまでさらされるのです。その中で私が注目したのは「ホタル」です。

私は千代田区のある場所で去年うまれて初めてホタルを見ました。それはとてもげん想的で見とれてしまいました。そのあとで、母にホタルについての思い出を聞いてみると、「昔ホタルがたくさんいた場所があったけど今はまったくいない。」

と言っていました。それでホタルがなぜいなくなってしまうのか不思議で調べてみることにしました。

まず、ホタルの生息地についてです。五十年前に生息していた場所と今の生息している場所の数をくらべると、なんと十分の一にまで減っているのです。この生息地を増やすには、まず「カワニナ」という貝のすめる川にすること

です。なぜかというホタルの幼虫はカワニナを食べて大きくなっていくのです。なのでカワニナがいる川にいればホタルの生息地が増えるかもしれないのです。そうならば、きれいにひかりながら飛ぶホタルをより多くの人が見られるのです。

しかし、原因はそれだけではありません。ホタルを見に来る人のマナーもあります。どういうことかというところ、もしホタルがきれいだというところで何びきつかまえて家に持って帰ってしまうとその分はんしょくができなくなってしまうです。これを何人も人が毎年やればホタルは減っていくばかりです。そして最後には絶滅してしまうかもしれません。このようなささいな行動でもホタルのつては大変なことなのです。ですから私たちがマナーを守らなければいけないのです。

このことはホタルに限らず、ほかの動物や魚なども同じです。みんな生きていてとてものだいじなのです。自分たちが少し気をつければ守れる命もあるのです。そのすべての生き物たちを思いやり、ともに生きていくそんな世界になれることを私は願っています。